

## 「アブラム、アブラハムと呼ばれる」

2020年12月21日

「あなたの名はもはやアブラムとは呼ばれず、アブラハムがあなたの名となる。あなたを多くの国民の父とするからである。」(創世記 17 章 5 節) 「私とあなたがた、およびあなたに続く子孫との間で守るべき契約はこれである。すなわち、あなたがたのうちの男子は皆、割礼を受けなければならない。包皮に割礼を施しなさい。」(創世記 16 章 10 節～11 節 a)

アブラムが行き先を知らず、カナンへ旅立ったのは 75 歳の時であった。この地で 24 年を過ごし、99 歳を迎えた。神はアブラムにまた現れて、「私は全能の神である。私の前に歩み、全き者でありなさい。そうすれば、私はあなたと契約を結び、あなたを大いに増やす」と言われた。アブラムは神の前を歩んだけれども、全き者ではなかった。神の言葉が信じられず、不信に陥り、人間的な思いで、子どもを得ようとした。神は今、アブラムに信仰を正すように諭し、契約を結び、大いなる国民にすると語りかけている。アブラムは、自分の不甲斐なさを恥じ、ひれ伏した。すると神は、以前とは違う大きな、確かな祝福を宣言された。「これがあなたと結ぶ私の契約である。あなたは多くの国民の父となる。あなたもはやアブラムとは呼ばれず、アブラハムがあなたの名となる。あなたを多くの国民の父とするからである。」アブラムは「高い父」、アブラハムは「多くの国民の父」という意味である。神は、アブラムがアブラハムと名を変えることによって、多くの国民の父とする契約を結ばれると言う。多くの子孫に恵まれ、諸国民を興し、王となる者が出る。この契約はあなたに続く子孫との間に立てる永遠の契約である。また、あなたが身を寄せているカナン全土を、あなたとあなたに続く子孫に所有地として与える。この契約によって、神はアブラハムに続く子孫一族の神となられる。

神は更に、あなたと、あなたの子孫は代々にわたって私の契約を守らなければならないと命じ、守るべき契約は、あなたがたのうちの男子は包皮に割礼を施すことであると言われた。神は、アブラハムを多くの国民の父とし、子孫を増やし、カナンの土地を与える契約のしるしとして割礼を受けなさいと厳しく命じられた。男子には皆、代々にわたって、生後 8 日目に割礼を施す。家で生まれた者、外国人から銀で買い取った者も、必ず割礼を受けなければならない。体に記された割礼が永遠の契約となる。包皮に割礼を施さない無割礼の男子は、民の中から絶たれる。私の契約を破ったからであると、手厳しい。

割礼は男性器の包皮を切り取ることで、性器が清潔に保たれ、生殖能力が高まる身体的な利点はある。しかし、私には割礼が神の祝福に与る契約のしるしになることが理解できない。まず、女性が排除されている。また、イスラエル人だけでなく、割礼を施行している民族は、世界の中に多数ある。けれども、イスラエル人は体に刻んだ割礼を絶対的な契約のしるしと見なし、厳格に守り抜き、割礼が「神の民」である何よりの誇りとなった。反面、申命記 10 章 16 節には「だから、あなたがたの心の包皮に割礼を施し、二度とかたくなになんてはならない」と肉に刻んだ割礼ではなく、心の割礼を重視せよという言葉もある。また、パウロは「割礼の有無は問題ではなく、愛によって働く信仰こそが大事です(ガラテヤ 5:6)」と、割礼を福音の光から徹底的に相対化している。創世記 17 章は、神がアブラハムを再度、召し出し、割礼のしるしによって、永遠の契約を交わすと、アブラハムと彼の子孫一族への祝福は確かな約束になったと記している。